古墳時代中期の吉備

－吉備の帆立貝形古墳について－

西田　和浩

【講座の概要】

１．はじめに

古墳時代中期に特徴的な墳形として、帆立貝形（式）古墳がある。前方後円墳に比べ、前方部が小さく、平面形が帆立貝に似ていることからこの名称が付けられている。また、大型古墳が多い畿内においても墳丘長 100m 以下のものが多い。巨大古墳の周辺に築造される例が知られており、その場合、陪塚と考えられることがある。帆立貝形古墳の出現には古墳築造の規制や格差の明瞭化という見方がある。

２．吉備の帆立貝形古墳

吉備においても帆立貝形古墳がいくつか築造されている。代表的なものとして、千足古墳・随庵古墳・天狗山古墳等が挙げられる。吉備南部を中心に築造され、造山古墳・両宮山古墳等巨大古墳に付随する例が見られる。一方、天狗山古墳・随庵古墳のように単独で築かれる例もある。墳丘規模は、森山古墳・千足古墳が最大級で、81 ～ 82 m程であり、中期の前方後円墳とは大きく隔絶している。埋葬施設には竪穴式石室が用いられる例が多い。

３.千足古墳から新たに発見された埋葬施設について

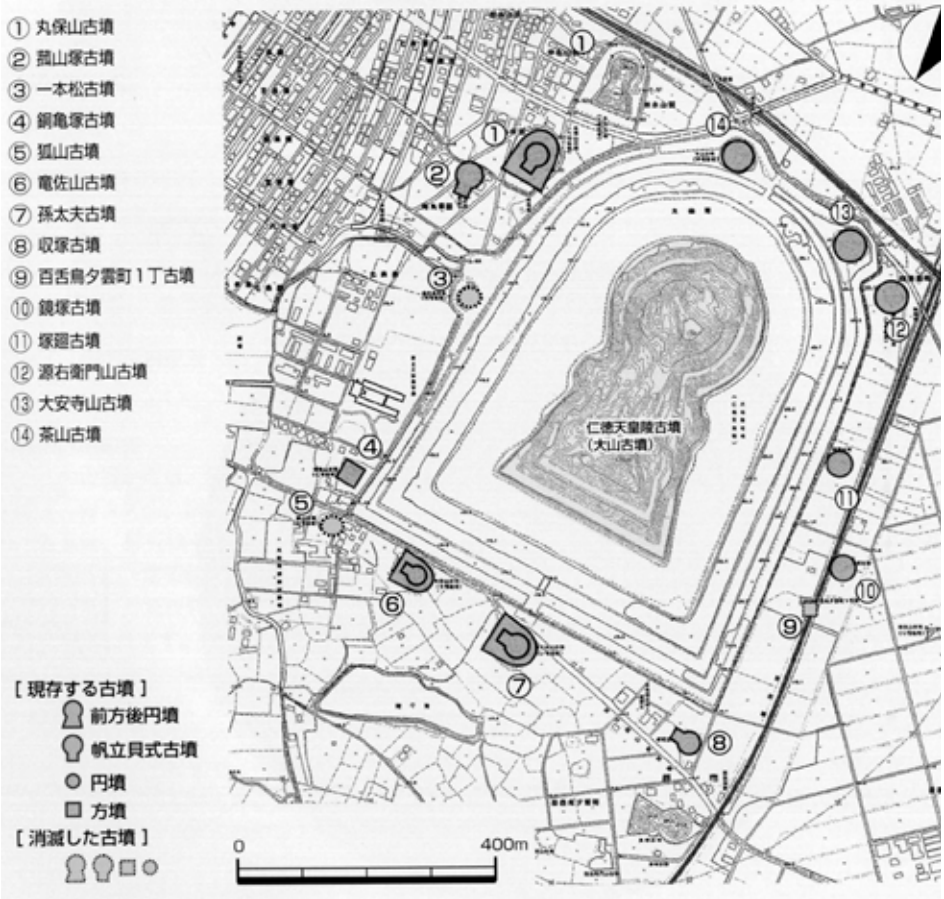
吉備ではいくつかの帆立貝形古墳が発掘調査されており、最近では天狗山古墳（1997 ～ 2000 年）・千足古墳（2010 年～）が発掘されている。千足古墳では 2013 年度の発掘調査で、後円部墳頂から新たに埋葬施設が発見された（第２石室）。埋葬施設は横穴式石室で、これまで知られている横穴式石室（第１石室）と並んで築かれている。墳丘中軸は二つの埋葬施設の間を通っており、墳丘築造から計画されていたことが分かる。新たに発見された第２石室は第１石室と同様九州系の初期横穴式石室とみられる。使用される石材は地元で採れる花崗岩を多く使用している。造山古墳群内では、この他、榊山古墳の埋葬施設が明らかになっており、割竹形木棺が使用され、竪穴式石室は築かれていない。この他、埋葬施設が判明しているものの多くは竪穴式石室が１基築かれることが多く、造山古墳群の特殊性が窺える。吉備における帆立貝形古墳の埋葬施設を考える上で重要な発見といえる。

４．おわりに

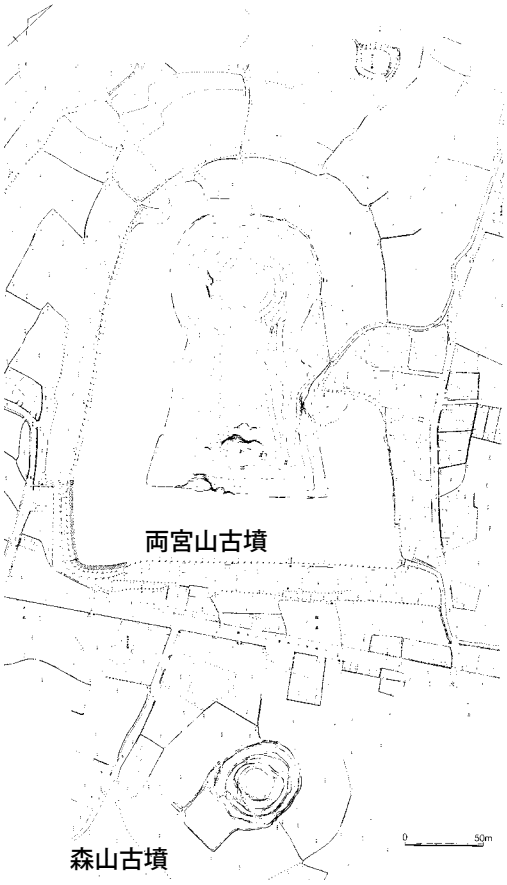
千足古墳と、その他吉備で築造された帆立貝形古墳を比べてみることで、千足古墳が個性的な古墳であることが一層理解できる。規制を受けた墳形と言われながらも、造山古墳群内には採用される埋葬施設に多様性がみられる。榊山古墳や造山４号墳も帆立貝形古墳の可能性があり、今後これらの調査が進めば吉備における造山古墳群の特殊性がより鮮明になるかもしれない。

【参考文献】
宇垣匡雅 2004「帆立貝形古墳の特性」『古墳時代の政治構造』青木書店
安川　満 1998『造山第４号古墳』岡山市教育委員会

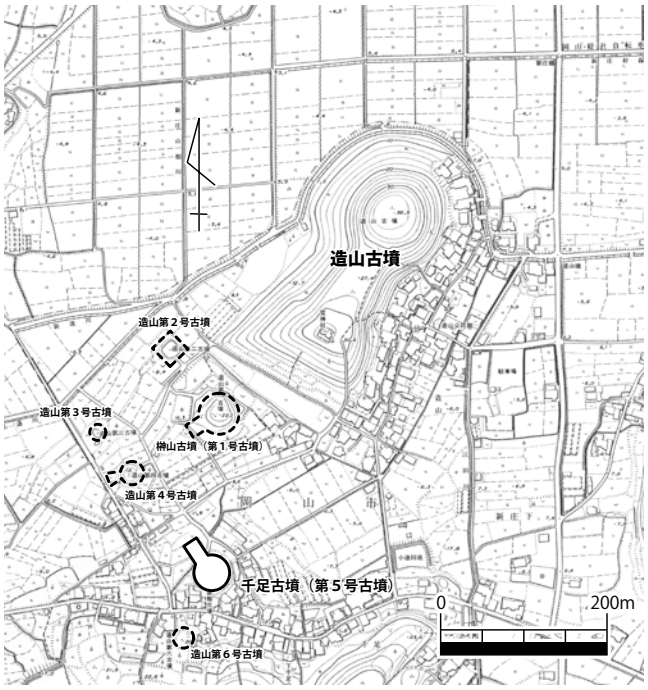
【図出典】
図1-1：大阪府立近つ飛鳥博物館 2011『百舌鳥・古市の陵墓古墳』　図1-2：山陽町教育委員会 2004『森山古墳・両宮山古墳』　図 2-1：総社市教育委員会 1965『随庵古墳』　図 2-2 岡山県 1986『岡山県史　考古資料』
その他図面：岡山市教育委員会作成



1. 仁徳陵古墳とその周辺の古墳

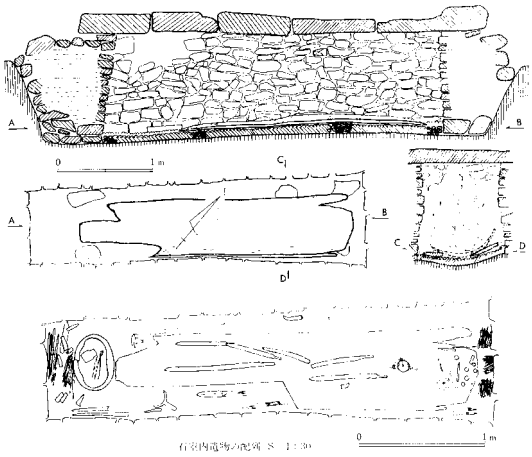


2. 両宮山古墳とその周辺の古墳

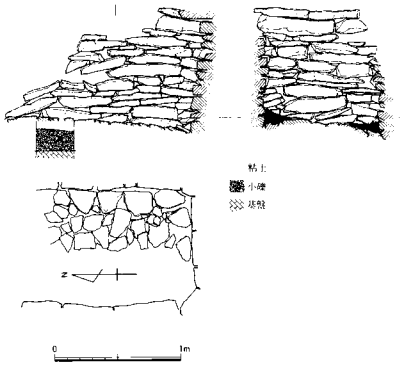


3. 造山古墳群

図１　前方後円墳と帆立貝形古墳の比較



1．随庵古墳



2．一本松古墳

図２　帆立貝形古墳の埋葬施設

表１　吉備の主な帆立貝形古墳

古墳名	所　在	墳丘長	埋葬施設	時期	備　考
榊山古墳	岡山市北区新庄下	70m	割竹形木棺（粘土槨か？）	5 世紀前半	造山古墳群
千足古墳	岡山市北区新庄下	81m	横穴式石室２基	5 世紀前半	造山古墳群
一本松古墳	岡山市北区北方	65m	竪穴式石室	5 世紀中頃	
随庵古墳	総社市西阿曽	40m	竪穴式石室・箱式石棺？	5 世紀中頃	
造山４号墳	岡山市北区新庄下	54m	不明	5 世紀中頃	造山古墳群
森山古墳	赤磐市穂崎	82m	不明	5 世紀後半	両宮山古墳に隣接
仙人塚古墳	笠岡市山口・走出	43m	竪穴式石室	5 世紀後半	
夫婦塚古墳	総社市赤浜	45m	竪穴式石室	5 世紀末	
牛文茶臼山古墳	瀬戸内市牛文	48m	竪穴式石室	5 世紀末	
天狗山古墳	倉敷市真備	60m	竪穴式石室	5 世紀末	

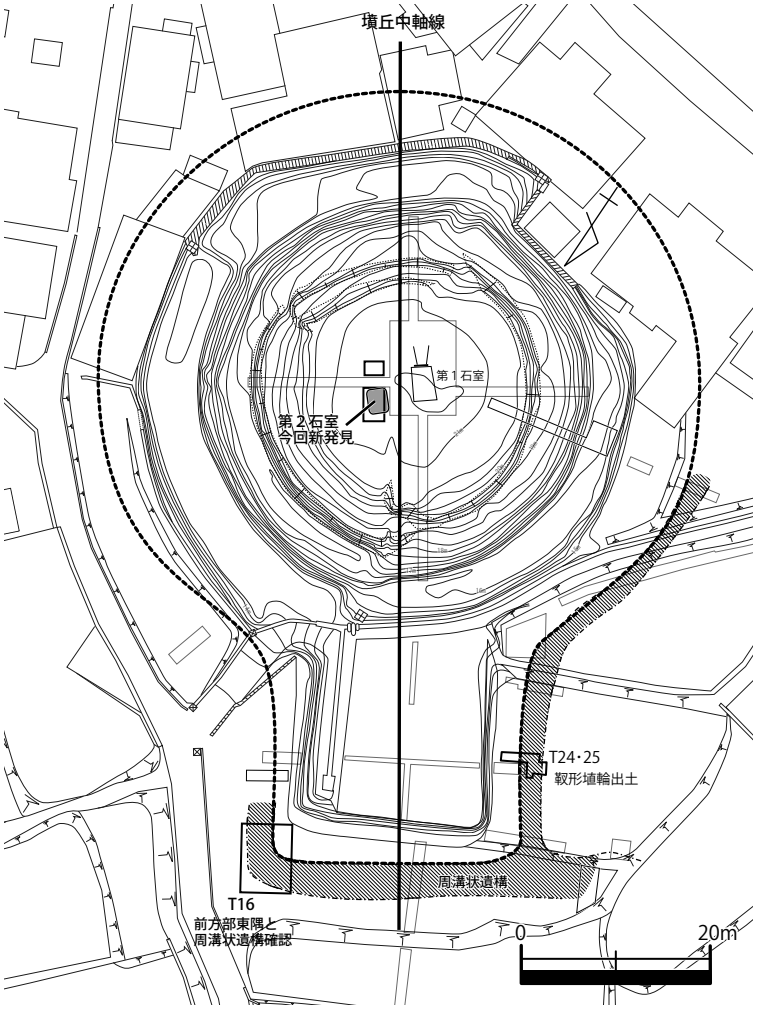
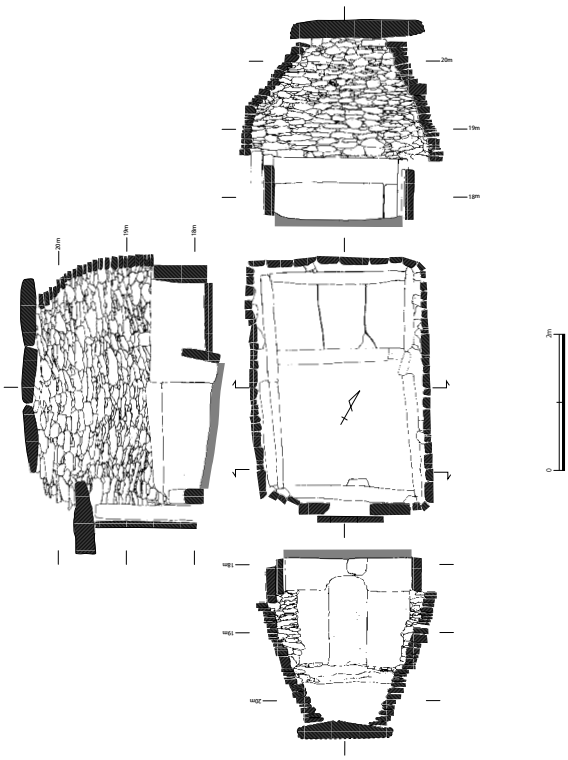
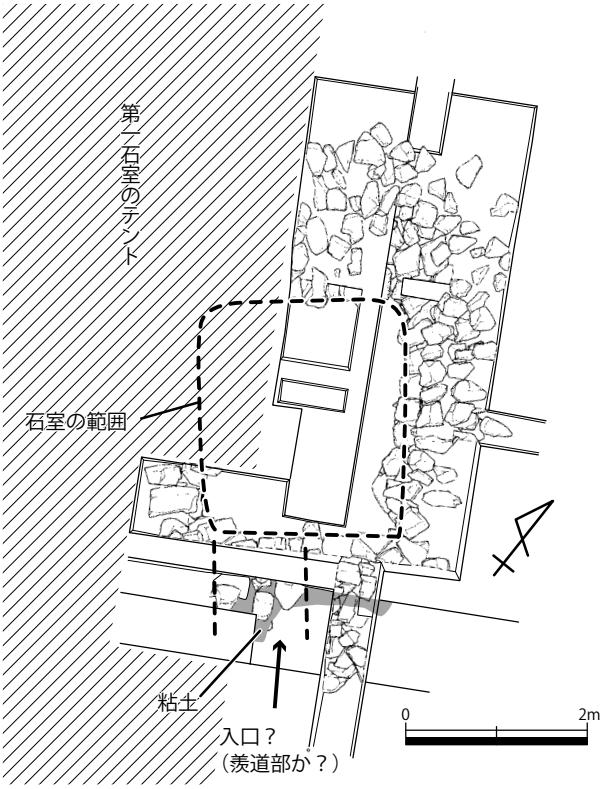


図３　千足古墳平面図



１．第１石室



２．第２石室

図４　千足古墳の埋葬施設